



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立 1964年3月2日

例会日 毎金曜日 12時30分

例会場 オークラ千葉ホテル

会長 鈴木 美津江

幹事 杉本 峰康

会報委員長 村田 紀之

〈事務局〉 〒260-0027 千葉市中央区新田町1-2-1 トーシン千葉ビル7階

(☎ 043-245-3204)

2012年11月第3週号

第2382回



平成24年11月16日(金) 点鐘12:30(晴れ)

ロータリーソング 『手に手つないで』

四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■お客様紹介

- ・地区米山記念奨学会委員会 委員 時田 清次様
- ・千葉港RC/岩澤 和夫様
- ・米山奨学生/王 欣さん
- ・ひかり学園 園長 武藤 直樹様

■会長挨拶及び報告 鈴木 美津江会長

こんにちは。朝晩かなり寒くなって参りました。以前にもお話をさせていただきましたが、広島平和フォーラムが、25年5月17日～18日に広島国際会議場で開催されます。参加ご希望の方は、お申し出下さい。(12/10締切) 千葉緑ロータリークラブより、「忘年家族例会」開催のご案内を戴いております。

日時⇒ 平成24年12月8日(土) 18時点鐘

会場⇒ 京成ホテル ミラマーレ

会費⇒ お一人12,000円

当クラブにも大勢の皆さんにお出でいただきたいと思っておりますので、是非ご参加下さい。

《**年次総会**》を12月7日(金)、例会時に行いますので、ご出席下さいますよう、よろしくお願い致します。

■幹事報告 杉本 峰康幹事

- ・本日、野菜とお米が搬入されます。例会終了後、駐車場にて配布しますので宜しくお願い致します。
- ・次週23日は祭日のため、例会はありません。
- ・次の例会は、30日(金)を変更⇒ 29日(木)点鐘18時 会場はオークラ千葉ホテル。閉会は19時です。

- ・11/12(月)に第3分区B合同ゴルフ大会が行われました。
- ・2/14に開催されるIMの講演者が決まりました。アナウンサーの山本文郎氏に決定したとのことです。

■ニコニコボックス報告

★地区米山記念奨学会委員会 委員 時田 清次様

王 欣さんの今後のご支援をお願い致します。

★鈴木 美津江会長、杉本 峰康幹事

・地区米山記念奨学会委員の時田清次様、本日はようこそお越し下さいました。本日はよろしくお祈り致します。

・王欣さん、卓話を楽しみにしております。

・千葉港RC・幹事兼会長エレクトの岩澤様、本日はごゆっくりとお寛ぎ下さい。

★出井 清会員

米山地区委員の時田さん、千葉南ロータリークラブへ、ようこそ。米山奨学生・王欣さん、本日の卓話をよろしくお祈り致します。

★齋藤 昌雄会員

蕎麦の刈り取りが昨日終わり、今年も24日(土)に蕎麦打ち名人の箕島さんを招いて“新蕎麦の会”を行います。当日は、久留里の太巻き寿司もありますので、ご家族で12時までにはいらして下さい。

本日のニコニコボックス	8,000円	累計	364,000円
金の箱	200円	累計	5,659円

■出席報告 (会員数39名)

出席者数30	欠席者数9	ビジター 4	修正出席率84.21%
--------	-------	--------	-------------

■千葉市内例会変更のご案内 [メニュー](#)にご利用下さい

千葉RC	月	12/10・31	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	12/11	センシティブ「東天紅」
千葉幕張RC	火	12/18・25	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	12/5・12・26	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水		ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	12/20・27	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	12/12・27	京成ホテルミラマーレ

◆◆◆ ローターリーを知る会 ◆◆◆

ゲスト⇒ 地区米山記念奨学会委員会
委員 時田 清次様
卓話者⇒ 米山奨学生 王 欣さん

《地区米山記念奨学会 委員 時田 清次様》



諸先輩を前にして、米山を語ることは、僭越と思いますが2790地区米山奨学委員として、皆様にお伝えしなければいけないことと、お願いがあります。

それは、最近中国、韓国との間で領土問題について緊張感が高まっています。この問題は、日本人であると同時に、ロータリアンとして、平和を考えるいい機会だと考えています。日本のローターリーが誇る、米山記念奨学事業は、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と、世界平和を目的に、1952年に日本で最初のローターリークラブを創立した米山梅吉翁の功績をしのぶことができる事業として、当時のロータリアンの強い思いで作られたものです。

米山記念奨学事業の使命とは「将来、日本と世界を結ぶ『架け橋』となって、国際社会で活躍しローターリー運動のよき理解者となる人材を育成することです。これは、ローターリーの目指す『平和と国際理解の推進』そのものです。」

日本に限らず領土問題などによって、民間交流という絆は、時に途切れそうになり不信をいただくこともあります。けれども理解なくして友情は生まれず、友情なくして真の平和はありません。人と人との交流の積み重ねこそが”絆“を少しずつ強くします。

今年は反日デモで異常な状態ですが、去年こんなエピソードがありました。尖閣諸島問題で、日中の緊張が高まる中、“中部みらいRC”の一行が北京の米山学友会を訪ねました。しかもこの日は9月18日、満州事変が起きた国辱の日として中国では最も日本への反発が高まる日でした。「なぜこのような時期に日本人が中国に来たのか？ 中国人はなぜ日本人を歓迎できたのか？ そこには共通の何があったのか？ それは、「ローターリーの精神」でした。当時の米山学友会会長キグンさんは、「ローターリー精神」とは国境を越えて、政治問題を越えて、歴史問題を越えて、将来必ず宗教と紛争問題を越えられる。人類が共有すべき基本的価値観追及する精神ですと話しています。このように、どんな困難も乗り越えていかなければ”絆“は強くなりません。そのためにも、米山奨学事業の使命を再確認し、事業を支援していかなければいけないと思っています。

米山奨学事業の理念として、「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためにはアジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて平和日本を肌で感じてもらうしかありません。それこそ日本のローターリーに最もふさわしい国際奉仕事業なのです。」この理念のもと、日本のローターリーが60年間繋いできた米山記念奨学事業のタスキを私たちが引き継いでいかなければ

ばいけません。

米山記念奨学事業を継続していくためには、事業収入が必要です。この事業収入の奨学金は全てロータリアンの寄付金から成り立っています。2011年度決算では寄付金収入が1,295百万円ありました。それに対して、奨学金と補助金が1,404百万円だったため、不足分は特別積立財産から取り崩して補いました。しかし、この特別積立財産も取り崩しの最低ラインである25億円になってしまったため2013年度は奨学生数を800人から700人に減らして事業費を抑えることになっています。2790地区では今年度27名の奨学生が採用されましたが、来年度は23名の奨学生採用となっています。

昨年度ロータリアン一人当たり年間寄付額全国平均は、14,624円で2790地区は13,714円で全国17位でした。今年度は前々年度とほぼ同額の15,000円を目標金額とさせて頂いております。地区の学生を何人採用できるかは寄付金の全国比率で決まりますので一人でも多くの奨学生を採用できるように、今年度も目標に向けてご協力をお願いいたします。米山奨学会は1月4日より「公益財団法人」の認定を受けているため寄付金には税制優遇措置が受けられます。

奨学生採用の目安ですが、本日書類選考会を実施しております。県内にある大学43校のうち7月に行われた奨学金の説明会に参加された学校は21校でした。そして、本日の選考会に申し込まれた人数は35名です。この方たちはすでに学校から優秀な学生であるとの推薦があるため、選考の基準はローターリー活動に関心があり母国と日本との親善の架け橋になる使命感のある人材を選ぶことになります。実情をご理解いただきご協力をお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。（文責 村田紀之会員）

《米山奨学生 王 欣さん》



千葉南ローターリークラブの皆様、こんにちは。中国から参りました王欣と申します。今年の4月から米山奨学生として、大変お世話になっております。本日、例会という素晴らしい場で卓話をさせていただき、誠に光栄だと存じております。今日はまず私のことについて少し話させていただきたいと思います。

私の出身地は瀋陽です。瀋陽は中国の東北地方に位置する遼寧省の省都です。東北地方最大の都市として、政治・経済・交通の中心的位置を占めています。中国有数の工業都市として、広大な工業地帯には大中型国有企業が集中しています。瀋陽は清朝の最初の国都とされ、太祖ヌルハチがつくった故宮やその墓である東陵などたくさんの歴史観光名所があり、観光都市でもあります。

私は、2007年に日本に来て、現在、千葉大学医学薬学府薬学研究科の博士課程3年生で、炎症や腫瘍部位における細胞外の酸性環境が免疫システムに与える影響について研究をしています。現在までに炎症や腫瘍の治療に

においては、数多くの化学療法剤の開発が行われてきましたが、期待通りの効果をあげられなかった理由の一つとして、局所的な酸性環境が細胞に与える影響に関する知見の少なさが挙げられます。将来、この研究成果は効果が高く、副作用の少ない新薬の開発に貢献したいと思っております。

日本での留学生活は、今年に入りもう6年目になりました。日本に来てから、「なぜ遠い中国からわざわざ日本に留学しに来たのですか？」とよく聞かれました。私にとって大学時代は、様々な経験により人生という長いスパンの中で自分自身はどのように生きていくべきかを自覚させてくれた貴重な期間でありました。以前は考えたことのない留学を決意したのも、大学時代を過ごしながらか出会った人々から受けた感動と刺激が心に種として残り、少しずつ成長し現れた結果であったと言えます。

専攻のため、私は大学3年のとき1年間日本語を勉強することになりました。その後、大学涉外課でボランティアとして外国人との連絡や交渉・接待の仕事に参加しました。日本人の先生や友人と幅広くコミュニケーションをとることができ、日本の文化に触れる機会が増えるとともに、噂やイメージで固めた「日本像」に囚われずに、自分の眼で確かめ、自分の身体で「日本」を感じたくなりました。日本に留学する前には私は学校と家のみの極限られた世界で生きていたため、自国以外の世界についての理解があまり深くありませんでした。日本には「井の中の蛙大海を知らず」という諺があります。私は日本への留学を目指していたのはこの人生を「井の中の蛙」として過ごしたくなかったからでもあります。

日本への留学を決意したきっかけは、大学4年のとき、私の所属する学科が主催した日中学術交流シンポジウムでした。日本からきた研究者による素晴らしい発表は私に大変感動を与えてくれました。さらに、そのシンポジウムでは、日本で活発に研究活動を行っている先輩から経験談を聞くこともでき、私には有益な機会でした。「先進国の進んでいる技術と素晴らしい研究者達との出会いによって社会に貢献できたのは、私の人生にとって宝物であった。」と語った先輩の話は印象深く心に残りました。この言葉は、私が留学を決意したひとつの動機になりました。そして、大学5年に迎えたとき、現在の指導教授小林弘先生が、当時私が在籍していた瀋陽薬科大学を訪問され、私は先生と話をすることができました。この出来事が私の人生にとって大きな転機となりました。私は、日本の医学薬学領域における先端研究にずっと興味を持っていたので、小林先生の誘いを受け、日本への留学を決めました。

月日の経つ早さを実感しているうちに、もう日本に来てすでに5年間経ちました。この5年間は私の人生にとって、かけがえのない貴重な5年間でした。5年前に、ただ勉強したい、学位を取りたいという好奇心と功利心を持って日本留学に来た私は、初めて一人暮らしの寂しさやアルバイトの辛さ、そして、学業の大変さによって磨かれ、当初わがままな女の子から責任感と自信を持っている大人へと成長してきました。私がここまで辿りつけたのは、私一人の努力だけではありません。先生方の関心と日本の皆さんの応援があったからこそ、今の自分があると思っています。学校の先生方は留学生である私のことを配慮し、学業に関してはもちろ

ん、それ以外のことも、熱心に相談に乗ってくれたり、指導していただきました。今年、博士論文を最終的に仕上げるために、アルバイトをする暇もなく、経済的な困難に直面している私に、ロータリー米山記念奨学会が支援の手を差し伸べてくださいました。ご支援のお蔭で、生活上の経済的負担が軽減され、私はさらに研究に集中することができました。カウンセラーの出井さんをはじめ、クラブの皆様が優しく私と接してくださるお蔭で、不安定な心が落ち着くようになりました。毎月の例会に限らず、夏の家族会、懇親会、里山の集いなどロータリアンの家族の皆様といろいろな交流ができたことで、私は日本社会、日本の文化、そして、ロータリアンの年代の方々の考え方や生活的なことを理解できるようになりました。

私はロータリーの奨学生になって以来、ロータリーの方々と身近で接する機会が増え、外から見ているロータリーの活動の中から見られるようになりました。そして、それを通して様々なことを考える貴重な経験を得させていただきました。各分野で素晴らしい成果をあげておられるロータリアンの方々と接している間に、小さな世界しか分からなかった自分の視野が大きく広がり、少しずつ変わって来ていると感じています。毎月一回発行される「ロータリーの友」という雑誌を読ませて頂いております。ポリオの撲滅、識字率の向上、貧困の削減など、世の中で困難な状況を打開するため、ロータリアンの皆様が懸命に努力されている姿はとても素晴らしいです。

ロータリーでは、奉仕を通じた世界平和を訴えてきています。奉仕とは一体、何でしょうか。正直と言うと、私はよくわからなかったです。しかし、ロータリーの奉仕活動を目にすることで、自分の無知に対して自覚ができ、世のための奉仕に対する考え方を教えてくれました。奉仕とは目に見える物質的なものだけではなく、いづどこにいても誰にでもできるものであることに、気付かされました。金銭的に豊かな人が目に見える物質的なものを与えることだけではないのです。例えば、笑顔で人に接することや、お店などですれ違う人にドアを開けて支えてあげることも奉仕であることです。

笑えるような気持ちでないときも、笑うことによって心もついてくると言われますが、奉仕も、奉仕をすることによって心がついてくるものだと思います。奉仕を通して自分以外の人と交流することによって、相手の笑顔を見たり、感謝されたりする中で相手から感じる良い感情を、光の反射と同じように、自分自身も感じるすることができます。私達は他人との関わりの中で生きています。奉仕とは、立場と関係なく、人々が支え合い、共に生きていくことそのものではないでしょうか。そして、その中で、自分を他人の立場から見つめることによって、自分の本質が見えてくる、自分を成長させるきっかけにもなるものだと思います。

社会の一員として社会のために何に貢献してきたか、生きているのは何のためかと自問自答した時、私は心の虚しさを感じましたが、ロータリーはその扉を開けて、全く新しい世界を見せて下さいました。

ロータリーの活動を通じて人のネットワークが広がり、私はさらにたくさんの優秀な人に出会うことができました。成功と幸せという共通のゴールに向かっている人々から、私はいつも希望と情熱と努力し続けるエネルギーを与えてもら

いました。

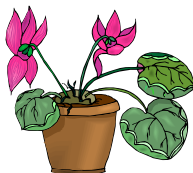
親元を離れ異国に来てから、いろいろ親切な方にお世話になりました。日本は、私の第二の故郷でもあります。文化の違いはあるものの、日本人の静かで、安心感のある優しい心に包まれて、今の私が育ったと思います。最近、中国と日本の間でいろいろあり、日中関係は最悪な状態にあります。これに対して私はとても残念に思います。生まれた故郷の中国と成長させてくれた第二の故郷である日本との両国は仲良くやってほしいです。ロータリーは奉仕を通しての世界平和を目指していますが、世界平和とは一人一人の交流から生まれてくるものであると思います。中国人の中で、日本について一番わかるのは私達日本に滞在する留学生だと思います。自分が異なる文化の中に身を置いて「心と心」の交流をすることが、その文化の理解に役立つことをこの6年間の留生活体験で一番感じました。私たち留学生は、日中両国交流の掛け橋として大変期待されていると思います。僅かな力でも日中両国の相互理解を増進するために精一杯努力し、一人でも多くの方がお互いの国に興味を持っていただき、理解して頂くことを願っています。

日本での留生活を通じて得たものはとても大きいです。それは出会った人たちに学んだ前向きな姿勢、他人の立場を考える思いやり、異なる文化や習慣を尊重する寛容性、心の平和を保つ力です。

この5年間どれぐらいの日本人に助けられたか数字では表現し難いが、心の中ではいつも感謝の気持ちがいっぱいでした。中国には次のようなことわざがあります。「たとえ一滴の水でも受けた恩義は、湧き泉として報いるべき」と。これは中国人にとって忘れないことです。学業を終えた後は、日本で結ばれた縁を大切にしながら、何らかの形で日本に恩返しができたらと願います。来年4月より、私は日本のCRO企業で医薬品安全性評価の業務を携わることになります。私は製薬・創薬の将来性と業務にとっても魅力を感じており、是非、精力的に医薬品安全性に関わる仕事に取り込み、国際社会に貢献したいと思っています。世界の人々の健康と長寿を願い、自分が身に付けた知識とチャレンジ精神をもって頑張っていきたいと思っています。世界中の人々とともにより豊かでより幸せになることは、私がこれからのめざす夢です。

拙い言葉を最後まで聞いてくださり、誠にありがとうございました。これまでのご支援に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともご指導いただきますよう、宜しく願いいたします。また、本日ロータリー米山記念奨学会委員会の時田様がわざわざ市原から足を運んで頂いたことに深く感謝致します。

ご静聴、ありがとうございました。(文責 村田 紀之会員)



【ロータリー米山記念奨学会のはじまり】

現在、日本のロータリアンは、個人で、クラブで、地区で、そして国際ロータリーやロータリー財団のプログラムを通じて、さまざまな活動をしています。そんな中であって、日本のロータリー独自の活動としては、「ロータリー米山奨学金」を第一に挙げることができるでしょう。この奨学金の名前は、もちろん日本のロータリーの創始者である米山梅吉氏に由来するものです。

第2次世界対戦中に国際ロータリーから脱退した日本のロータリーは、1949年に復帰しましたが、残念ながら、米山梅吉氏は、それを待たずに、この世を去りました。

米山奨学金の制度はどのようにして生まれたかは、『東京ロータリークラブ 50年のあゆみ』に見ることができます。

1952～53年度の会長は古沢文作、就任早々、会員はその誕生日の週間の例会に、夫人を同伴しようと、フェミニストぶりを発揮しての提案で、会員をびっくりさせたり、又、1953年3月15日の例会では、例会時間の15分延長を即決する離れ業を演じたものである。前者は実行されず、後者も永続させずに終わったが、彼が残した業績の中で、米山基金の設定は燦として輝いている。

これは、米山梅吉が、生前、東南アジアに深い関心を持っていたことから、ロータリー財団の奨学制度に模して、年2名の奨学生を、アジア諸国から招致しようとする計画であった。米山奨学制度は、1952年12月3日に、成案が可決され、翌年の2月25日に、募金計画が決定し、目標を260万円において、会員及び会員関係事業所から、2年継続の據金が募られた。面白いことに、その寄付第一号は、アメリカ人から寄せられた。当時、わが例会の“常連”で、バージニア州のロータリアン、ウイリー・ネルソンが、3月15日の例会で寄付してくれたものである。国際奨学事業の発足には、まことに相応しい情景であった。

もうおわかりのことと思います。米山奨学金は、最初、東京ロータリークラブ(RC)のプログラムとして始まったのです。当時は、米山基金という名称で呼ばれていました。現在、日本が誇るべき、この米山奨学金の第1号の寄付者が日本人ではなく、アメリカ人であったことは、あまり知られていないでしょう。

現在では、海外から日本に留学している学生の中から、奨学生を選んでいますが、最初は、現地で留学生を選考し、その後、学生が勉学のために来日しました。この米山奨学生の第一号、いろいろなところで紹介されていますので、ご存じの方も多いと思いますが、タイのソムチャード・ラタナチャタ氏です。

(ロータリー関連資料より)

第2383回例会 《夜例会》

日時⇒ 平成24年11月29日(木) 点鐘18:00

(11月30日(金)を変更します)

会場⇒ オークラ千葉ホテル

月の家 鏡太さんの落語をお楽しみ下さい!

第2384回例会

日時⇒ 平成24年12月7日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 会員ミニ卓話